

《担当者名》坊垣暁之

【概要】

免疫検査学Iで学んだ免疫系の基礎的な知識に加えて各疾患における免疫系の働きを理解し、その診断に利用される検査方法の原理と臨床的意義を理解する。

【学修目標】

- 1) 各疾患における免疫系の働きを理解し、その診断に有用な検査方法の原理と臨床的意義を理解する。
- 2) 免疫学的検査が有用な疾患について説明できる。
- 3) 疾患における免疫異常について説明できる。
- 4) 症例診断における免疫学的検査の重要性を理解できる。
- 5) 免疫学的検査の原理について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	免疫学的検査が有用な疾患	・免疫不全 教科書95～97、212～215ページ	坊垣暁之
2	アレルギー	・アレルギーの分類 ・アレルギーの病態と検査法 教科書82～84、196～198ページ	坊垣暁之
3	血清蛋白異常症関連検査	・異常免疫グロブリン検査 ・温度依存性蛋白、補体関連検査 ・急性期蛋白質検査 教科書220～232ページ	坊垣暁之
4	免疫学的検査の原理	・試験管内抗原抗体反応の基礎 ・抗原抗体反応に影響する因子 教科書99～106ページ	坊垣暁之
5	試験管内抗原抗体検査	・沈降反応 ・凝集反応 ・溶解反応 教科書107～116ページ	坊垣暁之
6	試験管内抗原抗体検査	・補体結合反応 ・中和反応 教科書117～121ページ	坊垣暁之
7	試験管内抗原抗体検査	・非標識免疫測定法 ・標識免疫測定法 教科書122～133ページ	坊垣暁之
8	電気泳動法	・電気泳動法 教科書134～143ページ	坊垣暁之
9	感染症の免疫学的検査	・細菌感染症の検査法 教科書145～162ページ	坊垣暁之
10	感染症の免疫学的検査	・肝炎ウイルス感染症の検査法 教科書162～168ページ	坊垣暁之
11	感染症の免疫学的検査	・レトロウイルス感染症の検査法 教科書168～177ページ	坊垣暁之
12	感染症の免疫学的検査	・その他の感染症の検査法 教科書177～195ページ	坊垣暁之
13	自己免疫疾患関連検査	・自己免疫疾患関連検査法 教科書199～211ページ	坊垣暁之
14	腫瘍マーカーの検査	・腫瘍マーカーの有用性と分類 ・腫瘍マーカーの検査法と評価 教科書216～219ページ	坊垣暁之

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
15	講義のふりかえり	・講義のふりかえり	坊垣暁之

**【授業実施形態】**

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

**【評価方法】**

定期試験 80～90%

講義課題 10～20%

**【教科書】**

窪田哲郎他 編集「最新 臨床検査学講座 免疫検査学」医歯薬出版 第1版 2017年

**【備考】**

適時、プリント等の資料を配布します。

クリッカーを使用した双方向型授業を行います。

**【学修の準備】**

教科書の該当する項目を予習し、専門用語の意味などを理解しておいてください（80分）。

講義で用いた資料に関して復習し、理解を深めてください（80分）。

**【ディプロマポリシーとの関連性】**

（DP2）臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

**【実務経験】**

医師

**【実務経験を活かした教育内容】**

医療機関での実務経験を活かし、免疫検査学の総論、各論の講義を行う。